

当日の釣り場はカンネコ根~鹿島沖の水深120~160メートル。年明けには犬吠岬沖が開幕する

【連載】※月1掲載

船釣りの作法

技食
釣技

アカムツに出逢う 確率を上げるために。

其の十七
茨城県のアカムツ

軟らかい砂泥底に突き刺さった12号オモリを引き抜くと、鹿島灘のウネリで竿が上下動する。筑波山の方角から季節風が吹き付ける中、そつと、オモリを海底に寝かせる。

ゼロテンション。
2メートルのストロークを生かしてウネリをかわし、オモリが底から離れぬように維持する。
その間、チモトに浮力を持たせた2本のハリはゆっくり沈んでいく。
そして、穂先が激しく震える。すぐに合わせるか、食い込ませるか。これ

は人によって意見が異なるが、アカムツのアタリが明確であることは同じだ。
ゼロテンションから竿を持ち上げて、穂先から胴へ魚の重さを乗せたら、ピーストマスター12000で巻き上げを始める。

アカムツは大きさの割に引きが力強い。中層で申押しと呼べる抵抗を見せれば、まず本命と見て間違いない。口

切れせぬよう用心深く浮かせていく。

食味のよさから宝石にもたとえられるアカムツだが、その釣りを運任せとイメージするのは安易だ。

なぜなら、アカムツ釣りは仕掛けや誘い方の工夫がアタリの多寡となつて還ってくる、釣り本来の楽しさが詰まつている釣りだからだ。

○松本圭一 淡水・海水を問わない無類の釣り好き。中でも船釣りには幅広く精通し、小型から大型魚まで様々なターゲットを追いかける。
○鈴木新太郎 千葉県出身の船釣りのエキスパート。得意とするフィールドは千葉県外房から茨城県鹿島灘・常磐にまで至る。